

C&C

Care & Communication

ケア&コミュニケーション

P1-2

THE FRONT LINE



口腔全体の健康を重視し、
「人として診る」想いを
グループで共有

LiCCA 心斎橋インプラントセンター 理事長
西村 真 先生

P3-4

INSIDE REPORT



本州最北端の町で
唯一の歯科医院として奮闘

ちよや歯科クリニック 院長
千代谷 良子 先生

P5-7

DOCTOR'S TALK



レーザー療法での症例と実践応用講座 1

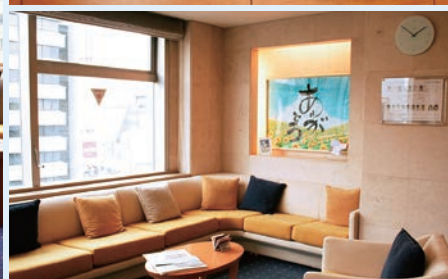
Nd:YAGレーザーを応用した2症例
コアのとれなかった症例と
リーマ破折症例から

医療法人社団 は・匠会 理事長
行田 克則 先生

エレベーターのドアが開くと広い待合室が目に入る



受付の壁には歯科医院のポリシー



座り心地のいい椅子が並ぶ待合室



ホテルのコンシェルジュのような受付



インプラントボルトが浮かぶクリスタルが飾られている入り口



ガラスの仕切りで開放感のある診療室

口腔全体の健康を重視し、 「人として診る」想いをグループで共有

LiCCA 心斎橋インプラントセンター 理事長 西村 眞 先生

LiCCA西村歯科グループは、西村眞理事長が診療を務める心斎橋インプラントセンターを中心に、大阪府内に4つの診療所を展開している。グループが大切にしている「患者を人として診る診療」についてうかがってみた。



西村 眞 理事長

静かな雰囲気で行われる診療

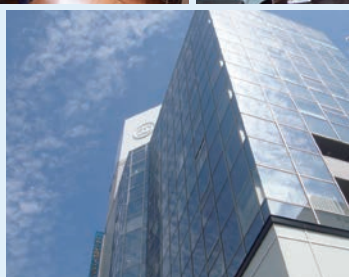


充実した設備の手術室



メンテナンスの様子

院内セミナーも開催



心斎橋の中層ビルに位置する



患者に補足説明のため渡す西村理事長の著書「おいしいごはんが食べたい」

インプラント研修を通して 体の治癒力の大切さも学ぶ

西村眞理理事長がインプラントに出会ったのは1978年、ニューヨークへの夏期セミナーだった。その後、日本で犬にインプラント手術を行う実験を見学したことで、さらに関心を深める。

「父の跡を継ごうと歯科医師の道を選び、理想像を模索していたとき、出会ったのがインプラントです。衝撃的でした」

当時のインプラントは黎明期。西村理事長は、「トップクラスの知識を得たい」と、東京の小宮山彌太郎歯科医師の門を叩いた。小宮山歯科医師は、世界初のインプラントシステムを確立したブローネマルク教授に師事し、日本で初めてインプラントを東京歯科大学で導入した先駆者だ。

西村理事長がショックを受けたのは、『生体組織は人間よりも賢い』と教わったことだ。治るということは、もともと生体が持つ治癒力が高まることで可能になる。その治癒力を邪魔しない技術と知識を持つことが、本来の治療であると教わったのだ。「小宮山先生もブローネマルク先生もきわめて保守的でした。たとえばブローネマルク先生は、インプラント患者のデータを国外へ門外不出というルールを徹底していました。それほどに医療に慎重であれ、という心得を学んだのです」

4つの診療所を結ぶ 「LiCCA」のコンセプト

西村歯科グループのコンセプトは「Leaders in Care & Conscientious Assistance」を略した「LiCCA」「誠意と技術を尽くし、健やかな暮らしをお手伝いします」という意味だ。

4つの診療所を持つことになったのは、1947年、堺市に開業したお父様の代から長年、地域医療に尽くしてきた自然発生的な結果だった。歯科医院を受け継いだ西村理事長は、1987年に医療法人西村歯科として金剛本院診療所を設立。最初のインプラントセンターの本拠地となった。その後、心斎橋にも拠点を設け、一般歯科を行う施設も必要と、金剛駅前診療所を開業。お父様も堺一条診療所で診療を継続。泉北診療所に西村理事長の弟さんが開業と、グループの拠点は増えていった。「日々の診療は診療所の自主性を尊重する。しかし、グループとして、患者さんに何を提供するかという思いは統一したい。その考えから、『LiCCA』というコンセプトとロゴを作り、グループ名に冠したのです」

全員が揃う総合ミーティングで 「働く」ことの意味を考える

西村歯科グループでは、年1回、歯科医師もスタッフも約60名の全員が顔を合わせる総合ミーティングを行っている。各施設で診療スタイルは違うため、総合ミーティングで重視するのは、「働く」ことに対する考え方だ。

「仕事にはジョブとワークがあり、私たちが目指すのはワーク。効率を考え、コストパフォーマンスを考えることがワークの達成につながります。まずはワークの意識を統一し、次に患者さんという『人』に触らせてもらっているという心のクオリティを共有していくことを重視しています」

心のクオリティとは、人間的な成長を意味する。西村理事長は一例として受付の対応を挙げた。予約をキャンセルする電話が入ったとき、笑顔で次の予約を受けるのは初歩。ファストフードのマニュアルレベルだ。大切なのは次の段階以降。カルテを見て「ブリッジのセットを2週間後にすると入らなくなる心配があります。1週間後の予約をおすすめします」といった診療を考えた

対応までできてこそ、真のコミュニケーションが成り立つ。そして、それができるためには、勉強を重ねていなければならない。

「二番目の段階までスタッフが育つまで3年かかりました。さらに次の段階は、次の予約までの間、患者さんが食べにくいのではないかと想像を巡らし、気づかう声かけられる。そこまで思いやる気持ちを持つためには、人間的な成長が必要なのです」

西村理事長は、スタッフに心のクオリティを忘れないで欲しいと、毎月の給与袋に手紙を入れるようにしている。その手紙に込めるのは、いつも「今月もありがとう」という気持ちだ。

心のケアを大切にすることが 院内や患者との関係を豊かにする

心のケアを重視するようになったのは、西村理事長が自らの働き方に疑問をもったことに始まる。

「6年前のことです。2倍忙しくなったことで、2倍豊かになっただろうかと考えたとき、逆だな、と気づいたのです。確かに患者さんが増え、売上は増えました。しかし、時間に追われ、みんな疲れている。それよりも、時間に追われることなく、幸せに働けることのほうがずっと大事だと感じたのです」

スタッフが幸せでなければ、患者の心に寄り添えない。そう感じていたとき、西村理事長は一人の患者と出会う。上下フルマウスのインプラントを受けたのち、「先生に命を助けていただいた」と感謝してきたのである。また、完璧な施術を行っても「噛めない」と訴える患者もいる。その陰には、医療側との心のずれ違いが隠れていることもある。

「命と聞くと、心臓病やがんなど、医科的な病気を思い浮かべます。しかし、歯科も『生きる』ことに関わる医療なんです。それをあらためて教えられました」

考え方の変化はクレームのとらえ方にも及んだ。患者の話に耳を傾け、受け入れることに徹してみたのだ。すると、患者の意見には一理あり、有用な改善点になることが少なくなかった。以来、クレームは1件もなくなった。

意識を改革すると、技術や知識の習得も深い意味を持つことになり、自発的に勉強したくなる。スタッフには、勉強を強要するより、意識を変えることが大事だと西村理事長は話す。

「3月の大震災の後は、よりいっそう人とのつながりの大切さを考えるようになりました。技術を磨くことも大切なことです。しかし、それは何のためなのか。何が幸せなのか。そこを考えることが、医療現場の活性化には欠かせないのです」

Profile

西村 眞 先生

- 1979年 岐阜歯科大学卒業 ●1984年 インプラント治療を始める
- 1992年 小宮山彌太郎先生(ブローネマルク・オッセオ インテグレーション・センター東京所長)に師事。BSシステムを学ぶ。 ●1993～ スウェーデンのラース・クリスターソン先生に師事。骨移植によるインプラント治療を学ぶ。年間を通じ、インプラント手術および講演を行い、日本のインプラント治療の普及に力を注ぐ。 ●Academy of Osseointegration(米国) 会員
- American Academy of Periodontology(米国) 会員 ●オッセオ インテグレーション・スタディクラブJAPAN役員 ●日本医療管理学会 会員 ●顎咬合学会認定医 ●club22会員

医療法人 西村歯科 LiCCA心斎橋インプラントセンター

住所:大阪府大阪市中央区心斎橋筋1-10-11 TEL:06-6253-2900
HP: <http://www.liCCA-implant-center.com/>

LiCCAグループ

- 堺一条診療所 ●金剛本院診療所 ●金剛駅前診療所 ●泉北診療所

本州最北端の町で 唯一の歯科医院として奮闘

ちよや歯科クリニック 院長 千代谷 良子 先生

本州の最北端にある青森県下北郡大間町の「ちよや歯科クリニック」は、町で唯一の歯科医院だ。2009年に開業したのは、千代谷良子院長の地域医療に貢献したいという熱い思いがあった。開業からこれまでの歩みをうかがってみた。



千代谷 良子 院長

明るく温かい雰囲気の外観



白を基調に美しく整理された準備スペース



落ち着いた待合室。モニターで歯科情報も発信



カウンセリングコーナー



トイレには、おむつ替えベッドを完備

お父様の勧めをきっかけに 帰郷しての開業を決意

大間町で生まれ育った千代谷良子院長は、大学入学を機に上京。卒業後も大学の付属歯科診療所で働いていた。そんな千代谷院長に、「地元へ戻らないか」という話が出たのは、4年前のこと。三姉妹の長女ということもあり、お父様から郷里へ戻るように勧められたのだ。

「キャリアを積むなら、東京圏のほうが環境が整っています。ずっと大学の歯科診療所で働きながら、技術と知識を磨いていきたい気持ちと、両親を安心させたい気持ちの間で揺れ動きました」

帰郷を決意させたのは、地域医療への思いだった。学んだ知識を持ち帰ることで故郷に貢献したいと考えたのだ。

その思いは、予想外の形で深まることになった。大間町には4軒の歯科医院があったが、函館にある歯科医院の分院だったり、院長が高齢などの理由から、ちよや歯科クリニックが開業する頃には、すべて閉院してしまったのだ。大間町は一番近い下北駅まで車で1時間ほどかかる。他の町の歯科医院に通うのは大変だ。

偶然が重なった結果だが、千代谷院長は、開業時から町の歯科医療を一手に引き受けることになったのだ。

父の死の悲しみを乗り越え、 家庭的な歯科医院を築く

2009年11月、ちよや歯科クリニックは開業した。温かみのあるクリーム色の建物に入ると、家庭的な雰囲気の待合室や真っ白で清潔感あふれる診療室が心地よい。内装に曲線を多用したのは、やわらかな空間を作ること、子どもにも親しみやすく、不安を抱きがちな患者の心を和らげたかったからだ。

「最初、私は一流ホテルのような高級感のある建物をイメージしていました。でも、建設会社を経営していた父が、町の診療所だから、温かみのある家庭的な雰囲気のほうがいいとアドバイスしてくれたんです」

順調に進んでいた開業準備だったが、千代谷院長を悲劇が襲った。お父様が深刻な病気を患っていることがわかったのだ。「開業日を父と一緒に迎えたい」と願った千代谷院長だったが、願いはかなわず、お父様は他界。頼りにしていた存在を失ったショックは大きかったが、開業日は待つてくれない。それから約4ヶ月、千代谷院長はお母様と力を合わせ、一つひとつ困難を乗り越えながら、開業の日を迎えた。

「父が亡くなったときは、本当に歯科医院が建つのかどうか、それさえ不安でした。無事に開業を迎え、患者さんを迎えたときは、なんとか父の夢に近い歯科医院ができたかな、と感無量でした」

虫歯の罹患率の高さに 口腔衛生教育の大切さを痛感

都市型の歯科医院で働いていた千代谷院長は、大間町でも予防に力を入れ、全顎治療をメインにした歯科医院を目指していた。しかし、フタを開けてみると、理想にたどり着くまでには、数多くの課題があることにショックを受けた。

「年齢を問わず、虫歯にかかっている率が高いんです。教科書でしか見たことがなかったような症例に出会うこともありました。まずは口腔衛生の大切さを教育することから取り組まなければ、と痛感したのです」

高齢者が多い土地柄ということもあり、義歯の症例が予想以上に多かったこと、歯科医院には痛くなってから行くものと考えている患者が多いことにも驚いた。

予約制のシステムを理解してもらうのにも、丁寧な説明が必要だった。歯科医院は行けば診てくれる場所という考えを持っている人が多かったからだ。

「毎日、驚くことがたくさんあり、どうしたら患者さんの口腔衛生への意識を高められるか、悩んだこともあります。今、開業から2年経って思うのは、原因と過程、結果を根気よく、患者さんが分かりやすいように説明するという基本に徹することしかないと思っています。なぜ、歯が痛むようになったのか、義歯が欠けてしまうのか、生活と照らし合わせ、理解していただくように順々に話していくことが、患者さんとの信頼関係を築く上では、とても大切なんですね」

理想の歯科診療を目指し、 コツコツと研鑽を重ねる

今、ちよや歯科クリニックでは、予約制を徹底し、1日の患者数を25人に抑えている。開業からしばらくの間、予想以上に患者が押し寄せ、一人ひとりの治療にじっくり向き合えないもどかしさ

を感じていたからだ。

「私が理想とする全顎治療を実現していくには、患者さんの口腔状態や生活を考えながら、ベストな治療を提案していくことが欠かせません。そして、そのためには、治療時間にゆとりが必要です。無理に時間を割けば、もっと患者さんを受け入れられないことはないのですが、将来を考えて、今は予約数をコントロールしています」

それでも、急患が10人ほど入ってしまうというから、歯科医師が千代谷院長一人、歯科衛生士と助手兼受付のスタッフ3人が働くちよや歯科クリニックの忙しさは、相当なものだ。

その忙しい合間をぬって、歯科技術の研鑽やスタッフ教育にもしっかりと力を入れている。地理的条件やスタッフ数の関係から、セミナー等への直接参加は近隣で開かれたときに限られるが、そのぶん、本やDVDを活用し、質の高い診療ができるように心がけている。ときに千代谷院長が講師となり、スタッフに教えることもある。

「開業から3年目に入った今は、基礎固めの時期。いずれは首都圏と変わらない治療ができるまでの歯科医院に成長させたいと考えています。そのためにも、患者さんとの信頼関係を大切に、根気よく、じっくりと歯科医療に取り組んでいきたい。インプラントや審美歯科なども含め、患者さんに『よりよい治療』を受けていただきたいと考えています」

Profile

千代谷 良子 先生

- 2004年 明海大学歯学部卒業。同大学病院PDI診療センター入局
- 2008年 退局 ●2009年 八戸の歯科医院に半年間勤務
- 2009年11月 ちよや歯科クリニック開業

ちよや歯科クリニック

住所：青森県下北郡大間町大字大間平28-21 TEL:0175-32-1184

美しく色分けされたチェアまわり



動線を考えた診療室



デジタルレントゲンも導入



千代谷院長とスタッフのみなさん

レーザー療法での症例と実践応用講座 1

Nd:YAGレーザーを応用した2症例
コアのとれなかった症例と
リーマ破折症例から医療法人社団 は・匠会
理事長
行田 克則 先生

レーザーって何なんだ

私はレーザーを導入して10年くらいが経過したが、導入当時もそして今でもその機構を十分に理解しているとはいえない。また過去にレーザーのセミナーに参加しても、つかみ所のないツールというイメージしか持てなかった。また歯科用レーザーにはNd:YAGレーザー以外に、エルビウム、炭酸ガスそしてダイオードレーザーがあるということも、実は導入当時も知らなかった。つまりレーザーと言うとどれも同じで、ビームの強さの違いがあるのかぐらいに考えていた。また約10年前のNd:YAGレーザー講習のうたい文句は「無麻酔により歯が削れる」と言ったもので、デモを見ても歯が削れているようには見えずつどう見ても

自分の臨床には必要ないだろうという結論を下したのが、レーザーに対する私の最初の見解といえる。その後ディーラーが試しに使ってみてくださいということで2週間くらい貸し出してもらったが、ほとんど使うことなく2週間が経過しようとしていたとき、たまたまフィステルのある患者に当ててみたところ、翌日排膿も止まり痛みがなくなったということを経験した。レーザーも少しは効果があるなという印象を持った。こんな経験からレーザー購入後、徐々に歯内療法に使用するようになり、今では根充前の根管内の滅菌や垂直加圧根充時の根尖疼痛の鈍麻など歯内療法時にはNd:YAGレーザーを必ず使用している。しかし治療機転がレーザーの熱による効果なのか光による効果なのか臨床では不明な点も多く、今でも「レーザーって何なんだ」という感覚が払拭できた訳ではない。



図1 初診時の状態
マージン不適なクラウンによる審美障害が認められる。写真は初診から約1ヶ月半が経過し既に歯内療法が始まっている口腔内の状態である。2002年1月29日

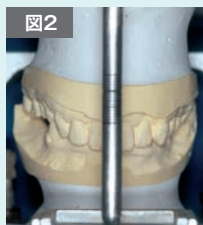


図2 咬合高径を挙上しないと複雑な症例となるため、初診時のスタディーキャストを中心位にて半調節性咬合器に付着し、診査診断を行った。

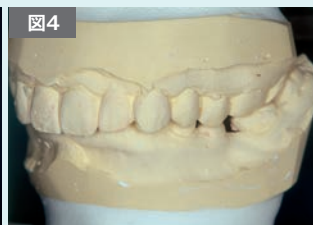


図5 初診1週後のデンタルX線写真を示す。側切歯には小豆大の病巣が、中切歯根尖近心部に透過像を認める。中切歯には頑強そうでレクト形態のコアが装着されている。無理をして外すと歯根破折が誘発されることが予想される。実際コア除去は30分くらいトライしたがあきらめた。根管から歯内療法ができないため、レーザーチップを直接透過部分に挿入し、蒸散作用を期待して滅菌を行った。2001年12月17日



図6 レーザー照射より約1ヶ月後。根尖部より遠心歯根膜にかけて腔の拡大が認められる。側切歯にはこのあと垂直加圧根充を行った。2002年1月29日

歯内療法とレーザー

前述の通り歯内療法にレーザーを使うが、滅菌のためだけにレーザーを購入するのではコストパフォーマンスが低すぎると謂わざるを得ない。またレーザーは種類によらず、一般的に外科処置に用いる場合が多い。そこでNd:YAGレーザー（以下レーザーと略す）による歯内外科処置にフォーカスを当て、臨床でたびたび遭遇する「コアの除去は困難であるが根尖病巣がある」といった症例と「リーマが破折しているが根尖病巣がある」について、その実際を解説したい。

症例1

コアの除去できなかった症例 (図1～12)

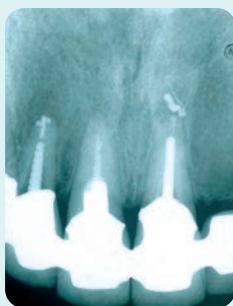
患者さんは、マグネットデンチャーを入れたのに噛めないから使っていないということで来院した。デンチャーを使っていなかったからか、咬合平面が大きく乱れていた。またオトガイに緊張があり若干咬合高径の低下も疑われたが、ウィリス法での計測では高径は低下してなかったことより

咬合高径を変えずに治療に着手することにした。また患者さんはデンチャーではなく一部インプラントを希望していた。複雑な症例では術前の咬合診断が必要となるため、半調節性咬合器にフェースボウにて模型を中心位の状態で付着し、治療計画を立案した。患者さんの希望もあり、抜歯は行わない計画が必要でもあったので。模型上の診断は非常に重要となる。

前歯部の歯内療法でレーザーを応用

右側側切歯(2)には多量の軟化象牙質と小豆大の根尖病巣を認めた。また根尖孔は完全に開いており保存困難に思われた。しかし患者さんの希望は非抜歯であったため、レーザーにて可及的に残存歯質を滅菌し垂直加圧根充を行い保存した。問題は隣接する中切歯(1)に認められた透過像であった。通法通りコア除去を何度も試みたが、歯根を破折する可能性があったため除去をあきらめ、根尖部に直接レーザーを照射し、蒸散効果による根尖切除を試みた。根尖切除と言ってもレーザーにより根尖部表層を蒸散すると同時に、囊胞壁に照射をする程度である。術後は2および1のX線透過像は消失し、再発の兆候もない。

図7



約1年後の状態。レーザーエンドを行った中切歯の根尖周囲には均一な歯根膜腔が観察できる。垂直加圧根充を行った側切歯の透過像もかなり縮小していることが観察できる。2003年1月14日

図8



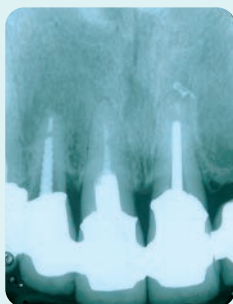
最終補綴物装着より約4ヶ月の状態。適合不良な補綴物によるブラックマージンは明らかに改善された。2002年10月9日

図9



約5年後の状態であるが補綴物の審美性は保たれている。2008年5月12日

図10



約8年後であるがレーザーエンドを行った中切歯、レーザー滅菌を行った側切歯共に良好な経過を示している。2011年4月18日

図11



図3、4の咬合器上に対応する口腔内であるが、咬合挙上を行わず最終補綴が行われ約2年が経過した状態を示す。

図12



レーザー療法での症例と実践応用講座 1

症例2

リーマの破折していた症例
(図13、14)

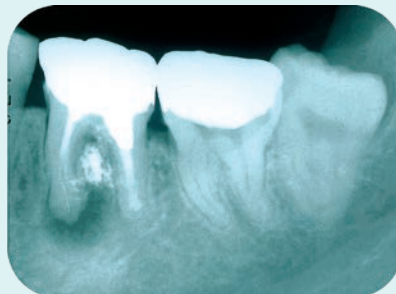
患者さんは下顎右側臼歯部にインプラントを入れたいということで通っていたが、通院中反対側の左側第一大臼歯に急性炎症を起こしてしまった。患者さんの希望はインプラント治療を行っていたこともあり、再治療はあまりしたくないとのことだった。またX線の読像より破折リーマが認められた。患者さんの希望と再治療の成功率を勘案し、炎症消退後、麻酔下においてレーザーによる根尖部の蒸散を行うこととした。一週間隔で2回ほどレーザー治療を行ったが、一回目の照射で自発痛は消え、排膿も解消した。レーザー照射から約7年が経過しているが、炎症の再発は認められず、さらに歯周組織、特に近心の歯根膜腔の狭小化が認められる。

最後に

レーザーにより根尖病巣が治癒するという事は画期的なことである。しかし十分なエビデンスがある訳でもない。私がこの方法を発表してから約6年が経過するが、私自身このテクニックにおいて約200症例を治療し、歯根破折歯以外(初診時歯根破折と診断できなかったもの)すべての歯の不快症状の消失を認めている。またそのほとんどの症例において骨改造を認めている。

本法は第一選択すべき方法ではないが、歯の保存を鼓舞することには異論がないと考えている。次の機会に同様の症例を報告しさらに考察を加えたいと考えている。

図13



下顎左側第一大臼歯近心根に急性炎症を生じた2004年1月26日の状態である。分岐部にはカルシウム製剤を挿入しpHの改善を試みた。

図14



レーザーによる蒸散根尖切除が終了して約7年後の状態を示す。頬側近心根に認められた透過像はかなり縮小していることが観察される。患者さんはこの7年間炎症を起こすことはなかった。2011年3月8日

Profile

行田 克則 先生

- 1982年 日本大学歯学部卒業 ●1986年 日本大学歯学部大学院卒業 ●1988年 上北沢歯科開設 ●2007年 四谷三栄町歯科開設
- 日本顎咬合学会評議員 ●日本大学歯学部非常勤講師 <学会会員> ●日本顎咬合学会 ●日本補綴歯科学会
- 日本歯科審美学会 ●日本口腔インプラント学会 ●The American Academy of Implant Dentistry
- The Academy of osseointegration

医療法人社団 は・匠会

上北沢歯科 住所: 東京都世田谷区上北沢3-17-6 七星ビル2階 TEL: 03-3329-5068

四谷三栄町歯科 住所: 東京都新宿区三栄町10番地 柳田ビル1階 TEL: 03-3350-0817

HP: <http://www.hatakumikai.com/>

SASAKI

お問い合わせ・ご意見: 『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>



Vol.26 December 2011 発行: ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。